

違い過ぎるものさし

金太郎

2つのものさしがある

1つは生まれて 59 年障害と向き合った私

もう 1つはその私を生まれた時から見ている母

生まれた時からの母の時計は止まったまま

「ヘルパーつけたい」という私に

「こんな手厚くしてるのに」と母

そりゃあ世界中探しても母親以上のサポートはないけれど

〈母〉という戻れる場所がある時に旅に出たかった

「通院中の水分補給…」という私に

「努力しないで」と母

この歳で？

「手足つけたい」という私に

「手足なくてもパラリンピック」と母

欠損と全身マヒの私同等—_—#

